

21日午後6時、関西国際空港

救援のためパプアニューギニアに向かう前に会見する和田邦雄医師（中央）らAMD Aのメンバー



「AMD A」医師ら3人派遣

津波で三つの村が壊滅し、住民数千人が被害を受けたと伝えられるパプアニューギニアで救援活動をするため、国際医療援助団体「AMD A」（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）は二十一日夜、医師二人、看護婦一人を現地に派遣した。救援チームは約一週間滞在、日本政府や現地政府などの救援隊と合流し、医療活動を行う。

（29面に関連記事）

二十一日午後九時二十五分発のオーストラリア機で関西国際空港からパプア

パプア津波救援

アニューギニアに出発。現地では首都・ポートモレスビーから北西部の都市・ウエワクに向かい、二十三日の午前中にも、救援用のセスナ機で、首都から約九百キロ離れた被災地のアイタペに入り活動を開始する。救援チームは、大阪府堺市の和田邦雄医師（左）、同府吹田市の看護婦、中原美佳さん（中）、滋賀県大津市の相馬祐人医師（右）の三人。渡航前に関西空港で報道陣と会見し「被害規模が正確でなく、医療設備も不十分で、衛生状態も悪いため伝染病が懸念される」などと語った。